



けやき会通信



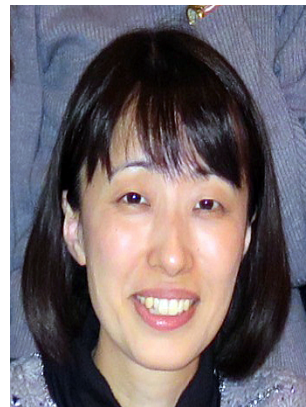
ありがとうの花束を

薬剤部 高橋佳代子 (糖尿病療養指導士)

櫛会の皆様こんにちは。急ではありますが、今年の1月で、関東中央病院を退職することになりました。1997年に4月に入社してから、あっという間の18年10ヶ月でした。

最初の年は、調剤室に配属され、薬剤師業務の基本である調剤をみっちり叩き込まれました。3年目からは、代謝内分泌科のある6階東病棟に配属され、服薬説明などの病棟業務をさせて頂きました。その後、他の病棟も担当しましたが、再び6階東病棟に戻りました。医師や看護師が新たな顔ぶれになる中、気付いたら10年以上いました。

患者様からたくさんのお話を教えて頂きました。もちろん、辛いこともありました。「これだけの食事しか食べられない患者の気持ちか、あんたにわかるか」と怒鳴られたこと、1型糖尿病を発症して間もない方と病室で一緒に泣いてしまったこと、一生懸命お薬の説明をした後、「それで、何しに来たの?」自分の未熟さに落ち込み、患者様の一言が鋭くつきささりながらも、退院の時に「ありがとう」、外来の窓口で名前を覚えていて下さって、「HbA1C、キープしていますよ」と声掛けされると、とても嬉しく励みになったものです。



櫛会には、創立30周年位から少しずつ関わらせて頂きましたが、薬剤部の坂奥、中里、林と大先輩方の後を引き継ぐのはプレッシャーでした。年に1回のミニレクチャーでは、水野先生、矢野会長、新井前副会長をはじめ、櫛会の皆様に助けて頂きながら、楽しい時間を過ごすことができました。そして、ついこの間の40周年記念パーティは忘れられないものとなりました。

昨年からは、大野看護師長を中心に、当院の糖尿病療養指導士がまとまり、他施設との交流が始まり、新たな一歩を踏みだしています。また、6階東病棟担当薬剤師も、栗山、荒井とフレッシュな顔ぶれで、糖尿病療養指導士を目指して頑張ってくれることになりました。私も、フランスで新生活を始める予定です。引き継ぎもままならず、志半ばで退職するのは、少し後悔もありますが、大きな希望を胸に何か得られるものがあれば良いなあと思っています。

本当にありがとうございました。また、皆様とお会いできますように。Au revoir!

(注：高橋佳代子先生はご主人(高橋政夫先生)のフランス留学に伴い、パリで新たな生活に入られることになりました。因みに、高橋政夫先生は、元、関東中央病院循環器内科の医師で、この度、パリ郊外のHenri Mondor病院に御留学される事になりました。お幸せに!)

